

一 般 財 団 法 人
山 鹿 市 地 域 振 興 公 社

経 営 状 況 説 明 書

平成 2 9 年度の決算に関する書類

1 事 業 報 告 書

2 決 算 報 告 書

(1) 収 支 計 算 書

(2) 正 味 財 産 増 減 計 算 書

(3) 貸 借 対 照 表

3 財 産 目 録

平成 29 年度一般財団法人山鹿市地域振興公社事業報告書

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

1 総括事項

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に基づき設立認可された一般財団法人山鹿市地域振興公社の平成 29 年度事業実施に当たり、山鹿市の「公の施設」7 施設の指定管理を引き続き受託し、市民サービスの向上、福祉の増進に努めるとともに、市民の文化・観光及びスポーツ振興の積極的な推進を図った。さらに、自主事業及び公益目的事業を展開し、利用者の満足度向上に努めた。

熊本地震発生から 1 年が経過したが、県内では未だその影響による観光の冷え込みが問題となる中、当公社管理の観光施設においても地震発生前の水準までには回復がみられなかった。一方、文化および体育施設においては、昨年ほどまでの影響はなく以前の状況へと回復がみられた。

また、体育施設においては、長年にわたる山鹿市サイクリングターミナルと山鹿市民スポーツセンターの指定管理を無事終了した。

一年を通して熊本地震で得た教訓を忘れず、安全で堅実な施設管理・運営を行った。

2 事業の内容

(1) 自主事業・公益目的事業

ア 文化振興・福祉向上事業

(ア) 「山鹿市旅先案内人養成講座」を実施し、市民のボランティア活動を積極的に支援しながら、山鹿の魅力を観光客に伝えるための体制づくりを図った。

(イ) 山鹿市旅先案内人の会による土・日祝日の山鹿灯籠民芸館内でのボランティア案内を、年間を通して実施した。

(ウ) 山鹿市旅先案内人の会に協力を依頼し、西南戦争・山鹿口の戦いをテーマとした豊前街道沿いの「史跡まち歩きマップ」を制作し新たな観光素材づくりを行った。

(エ) サイクリングターミナルにおいて、夏・冬休みを利用した子ども達向けの「わくわくどきどき宿泊体験」を開催し、集団生活を通して協調性・社会性、他人への思いやりを学ぶ機会を提供した。

また、地域の方々のご協力をいただきながら芋ほり体験などを行ったり学生にボランティアの場を提供し、子供たちとの交流を行った。

(オ) 青少年の健全育成を目的に、サイクリングターミナルで年 3 回小学生を対象とした季節に応じた物づくり体験やファミリークイズラリーなどの「日帰り体験」を実施した。

また、山鹿市教育委員会にご協力をいただき、小学生を対象に ALT の先生方と一緒に英語を使う日帰り体験プログラム「イングリッシュ・デイキャンプ」を行った。

(カ) 八千代座を支えた文化のひとつに「映画」がある。そこで、八千代座で映画上映会を実施することにより、地域で失われている映画鑑賞機会の提供と映画文化の推進を図った。

- (キ) 八千代座において、地域に根ざした芸術文化の創造を目的に狂言、子ども歌舞伎教室等の八千代座文化講座事業を実施した。
また、大宰府で開催される「ちびっ子夢ひろば」に子ども歌舞伎が招へいされた。
- (ク) さくら湯の龍の湯を活用し、市内小学生1年生を対象に、山鹿温泉の歴史や入浴マナー等を学ぶ体験事業及び市内金婚夫婦招待事業を山鹿市と共同で実施した。
- (ケ) さくら湯において「木造再生5周年・春の感謝祭」、「アロマテラピー教室」、市民の手芸作品等の展示や音楽愛好家によるコンサートをはじめとした「山鹿湯町企画展」等を実施した。また、季節の年中行事として「菖蒲湯」、「敬老湯」、「ゆず湯」、「金柑湯」を実施し入浴者数の増加を図った。
- (コ) さくら湯において道後温泉等でも有名な夏場の「簾かけ」と、風鈴を併せて設置し、季節感ある温泉町風情を醸成する取り組みを行った。また、山鹿温泉祭では「温泉祭プロレス」を企画し、かつての「サーカス」のような市民の記憶に残るイベントとなるよう継続実施した。
- (サ) 4年目を迎えた「町湯めぐり」を継続して実施し、山鹿温泉、平山温泉の11温泉施設のスタンプラリーによる市内の回遊性を高めながら、山鹿市の温泉地としての観光振興を図った。
- (シ) 市民の運動不足の解消、健康増進等を図る目的で、市内外、男女、年齢に関係なく楽しめる「第16回新春ビーチボールバレー大会」を実施した。
- (ス) カルチャースポーツセンターにおいて、①期間内に何度も利用できるトレーニングジム会員制度②スポーツトレーナーによるシェイプアップ・体力向上プログラム等を取り入れたフィットネス会員制度③ジムとフィットネスの両方の講座を利用できるダブル会員制度の3種類の会員制度を継続し、施設の利用活性化と市民の健康増進に取り組んだ。
また、さくら湯と連携した「アロマの香りとヨガによる健康運動教室」も引続き開講し、体育館利用の活性化・市民の体力増進・健康維持を図った。
- (セ) 「2019 女子ハンドボール世界選手権大会」開催へ向け、市民がハンドボール競技への関心・理解を深めてもらうことを目的に、山鹿を活動拠点とする「オムロンハンドボール部」のスピードとパワー・戦術等を間近で見ることができる一般公開練習会を開催した。
- (ソ) 山鹿灯籠民芸館において、山鹿灯籠まつり開催に併せ、熊本地震で被害をうけた「熊本城」「阿蘇神社楼門」など既存の灯籠作品を集めた特別展を行った。また、昨年同様、定時での灯籠師による作品解説も行いながら山鹿灯籠のPRと入館者の増加を図った。
- (タ) 山鹿灯籠民芸館の山鹿灯籠浪漫百華百彩の特別企画展として、山鹿市在住のアールブリュット作家「松本寛庸〜My selection」展を愛隣館と企画共催し、施設の新たな活用を試みるとともに入館者の増加を図った。

- (チ) 市民交流センターのホワイエ活用事業として、公民館講座の作品や一般の方々の写真や絵を展示し、情報発信と相互交流の促進を図った。
また、ホワイエコンサートを定期的に開催し、市民交流及び文化活動の場所としての活用も図った。
- (ツ) 市民交流センターにおいて「フルコンサートピアノを弾いてみませんか」を開催した。市民の方々に優れた備品を活用した演奏体験をしていただくことを目的としながら、併せてグランドピアノの状態管理として必要な弾きこみによる音質向上も図った。

イ 文化・スポーツ等の情報提供に関する事業

- (ア) 山鹿市名刺録を発行した。
- (イ) 西南の役の史実である山鹿口の戦いを市内外に知ってもらうため「西南の役山鹿口の戦い」を販売した。
- (ウ) 公社のホームページ及びダイレクトメールを活用し、施設及び物品を紹介し、利用者の拡大を図った。

ウ その他の関連事業

- (ア) 観光名刺台紙を販売した。
- (イ) 山鹿市のお土産品としてハローキティグッズを販売した。
- (ウ) 山鹿の伝統的工芸品「(山鹿灯籠) 金灯籠」をモチーフとした手持ち灯り(姫灯籠)を販売した。また、手持ち灯りを活用した制作体験を実施した。
- (エ) 山鹿灯籠への理解を深め、親しんでいただき、山鹿灯籠民芸館の集客をはかるために、「ミニ灯籠」制作体験を実施した。
- (オ) サイクリングターミナルの宿泊増加のため、大会及び合宿団体に無料昼食券及びさくら湯の入湯券を提供した。
- (カ) 山鹿市全域の観光情報等を発信する観光案内所及び観光レンタサイクルの充実を図った。

(2) 受 託 事 業

次の各施設の管理運営及び受託業務にあたった。

「指定管理者制度施設」

- ア 八千代座等
- イ 山鹿市サイクリングターミナル
- ウ 山鹿市さくら湯
- エ 山鹿市民スポーツセンター
- オ 山鹿市カルチャースポーツセンター
- カ 山鹿灯籠民芸館
- キ 山鹿市民交流センター

「受託業務」

- ア 山鹿灯籠踊り保存会及び観光振興業務
- イ 山鹿市立博物館の受付業務
- ウ 山鹿市情報発信拠点創り事業

3 事業収入に関する事項

公社の基本財産30,000,000円の運用利息7,500円、文化振興福祉向上事業費収入（公益目的事業収入）2,045,000円、文化・スポーツ等の情報提供に関する事業費収入及びその他の関連事業収入1,987,650円、「公の施設」管理運営等の指定管理料及び利用料金227,877,307円、雑収入1,873,420円、前年度繰越金58,177,010円（基本財産3,000万円含む）を加えた公社事業費総収入額は、291,967,887円であった。

4 事業支出に関する事項

自主事業（文化振興福祉向上事業、文化・スポーツ等の情報提供に関する事業、その他の関連事業）経費3,724,138円（公益目的事業含む）、「公の施設」管理運営等に伴う経費197,572,967円（公益目的事業含む）、管理費（公社事務局運営費）1,635,418円、特定預金支出18,705,000円、租税公課6,778,800円、公社事業費支出費総額は228,416,323円（内公益目的事業10,754,820円）であった。

5 その他の事項

平成30年度への繰越金は、63,551,564円（基本財産3,000万円含む）である。